

平成 25 年 10 月 22 日

3 年保護者様

枚方市立蹉跎中学校

校長 大橋 一彰

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査の結果と本校の課題

<国語>

・国語 A、B ともに大阪府の平均正答率を上回っています。また、昨年度の学力調査（但し、大阪府で実施）と比べても平均正答率ほとんど変わっていません。

1. 国語 A（主として知識）

・「読む能力」に関しては、全国平均よりも優れていますが、「書く能力」については、全国及び大阪府の平均よりも下回っているものもあります。

・また、言語についての知識・理解・技能については、「漢字を読むこと」は全国平均よりも上回っている問いが多いですが、漢字を書くことについては、大阪の平均よりも下回っている回答が多く、全体的に「書く力」が弱い傾向にあります。また、適切な語句を選択する問題は、おおむね全国平均を上回っています。

2. 国語 B（主として活用）

国語 B においても傾向は、国語 A と変わらず、「書く能力」を問う問題ででの正答率が低く、さらに、回答形式が記述式のものの正答率が低い傾向にあり、昨年度と変わりありません。

<国語において正答率の低い問題例>

国語 A の 8 三 一語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う一

次のアからカの文では、() の中の 1 から 4 までのうち、どれが最も適切ですか。
それぞれ一つずつ選びなさい。

イ 友達に将来の (1 抱負 2 初心 3 意志 4 感想) をはなす。

国語 A 問題（主として知識を問う問題）で正答率が、全国の正答率よりも 10 ポイントも低い問題です。正解は 1 ですが、3 を選んだ生徒が正解と同じくらいいます。これは、「抱負」の意味を正しく理解しておらず、「将来」と結び付けて文脈の中で適切に使うことができなかつたものと考えられます。言葉を文脈の中で適切に使えるような、学習が必要であると考えられます。

<数学>

・数学 A、B ともに大阪府の平均正答率を上回っています。特に、数学 A については、全国の平均よりも上回っており、数学についても昨年度と同様の傾向です。

1. 数学 A（主として知識）

「数と式」の領域の正答率は大阪や全国の平均正答率を上回っているが、「図形」の領域は、大阪の平均正答率を下回っており、図形の領域に課題がみられます。

2. 数学B（主として活用）

「図形」及び「関数」の領域で大阪及び全国の平均正答率を上回っているものがあります。一方、「数と式」及び「資料の活用」の領域で大阪府の平均正答率を下回っており、課題がみられます。

<数学において正答率の低い問題>

<数学 A> 9 関数の意味を問う問題

下のアからオまでの中に、 y が x の関数であるものがあります。正しいものを1つ選びなさい。

- ア 生徒数が x 人の学校の校庭の面積 y m^2
- イ 底面積が x cm^2 の直方体の体積 y cm^3
- ウ 身長が x cm の人の体重 y kg
- エ 自然数 x の倍数 y
- オ 整数 x の絶対値 y

本校の正答率は13%強しかない問題であり、全国的にも正答率が低い問題です。正解はオですが、イを選んだ生徒、エを選んだ生徒が、正解を選んだ生徒よりも多い状況です。

本問題において、例えば、自然数 x の倍数 y について考えると、 $x=3$ のとき、 y は3、6、9、……のようになり、一つに決まらない。また、底面積が x cm^2 の直方体の体積 y cm^3 について考えると、 $x=3$ のとき、高さがわからないため体積を求めることができず、 y は一つに決まらない。これらに対し、整数 x の絶対値 y について考えると、 $x=4$ のとき $y=4$ 、 $x=-5$ のとき $y=5$ のように、すべての整数 x に対しその絶対値 y は一意に決まることから、 x が y の関数です。このことから、関数の意味が学習している場面では理解できているつもりでも、それを活用する能力が身につけていないと考えられます。学んだことを活用できるような学習、授業が必要になると考えます。

【改善ポイント】

- ◇ 本校は生徒の学力向上を目指し「落ち着いた授業」の実現にもっとも重点を置いています。引き続き、生徒が授業に集中できるよう学習規律を確立する取り組みを小学校と連携して実施します。
- ◇ より学力の向上を目指すためには、授業の中身を充実するよう教師が自覚し、教育技術の向上に努めることが求められています。「自分の考えを発表したり、自分の考えを書いたりする機会が少ない。」その結果、「文章を作ることが苦手である」という回答が生徒質問紙の回答の傾向です。生徒に基礎を理解させることはもちろんですが、今回のテストで課題となった、書く力や考える力を養うための授業づくりを進めていく必要があります。
また、今回の問題での傾向でもある、基礎・基本を「活用」できるような内容の学びが必要です。
- ◇ そのため方法の一つとして、興味・関心をもてるように教材を工夫すること、文章問題、記述問題に意欲的に取り組めるよう個に応じたていねいな授業づくりをすることを目指します。
- ◇ また、自学自習が学力の定着のキーワードです。家庭学習を促すよう家庭での学習課題の充実を目指します。ご家庭におかれましても、ご協力をお願いします。